

福祉専門職教育における実習記録の ICT 活用に向けた課題

Issues for the use of ICT in Practical Training Records in Education for Social Work Professionals

坂本 毅啓^{*1}, 佐藤 貴之^{*1}, 中原 大介^{*2}
Takeharu SAKAMOTO^{*1}, Takayuki SATO^{*1}

^{*1} 北九州市立大学

^{*1}The University of Kitakyushu

^{*2} 福山平成大学

^{*2} Fukuyama Heisei University

Email: s-takeharu@kitakyu-u.ac.jp

あらまし：社会福祉臨床現場で体験的に学ぶ実習では、体験から学びへと高め、専門的スキルを獲得することを目的として実習記録が現在手書きで作成されている。実習記録における ICT 活用について、学生へのアンケート調査を行った。その結果、「手で文字を書くことの学習効果」や「非言語的に伝わること」等の手書きが持つ機能性への期待があり、実習記録を作成する教育目的を達成する上で必要な条件であるのかを今後検証する必要がある事が分かった。

キーワード：福祉専門職教育、実習記録、専門的スキル、ICT 導入

1. はじめに

新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の感染拡大の影響から、福祉専門職教育における実習に関しても ICT を活用することが求められている。しかし、福祉専門職教育における ICT 活用に関する研究については、十分に積み上げられているとは言えない^[1]。本稿では、実習記録 (実習日誌) 作成に対して ICT を活用することについて、学生へのアンケート調査結果から ICT 導入への課題点について明らかにすることを目的とする。

2. 実習記録を書く教育目的と意義

厚生労働省は現場実習のための実習指導において、「実習記録ノート」(実習記録) の内容と方法について理解することを目的に掲げている^[2]。同時に実習記録を活用して指導を進めることも求めている^[3]。福祉専門職養成の教育機関の団体である日本ソーシャルワーク教育学校連盟は「実習指導ガイドライン」において、実習記録の意義・書き方・取り扱いについて理解することを目的として挙げている^[4]。

実習記録を書く意義は、①「支援活動の内容と結果 (影響・成果) を資料として蓄積すること」^[5]を目的とした「対人援助専門職としての活動を支えるスキル」^[6]の獲得、②実習前・中・後におけるコミュニケーションツール^[7]として活用、以上 2 点を挙げることができる。

3. 研究方法

調査対象は、調査実施年度に現場実習を実施する学年に属する、社会福祉士を目指す大学生及び専門学校生及び介護福祉士を目指す専門学校生とした。

調査方法はアンケート用紙を作成し、授業時間外に配布を行い、調査の主旨及び倫理的配慮について

説明をした上で各人の自由意志に基づいて調査への協力を求めた。調査の実施及びデータの取り扱いについては、北九州市立大学における「人を対象とする研究に関するガイドライン」に則った。

4. 結果

表 1 調査対象の概要

項目	度数	有効%	
配布	配布	82	
	回収	82	
	有効回答 (有効回答率)	77	93.9%
実施年度	2019年	36	46.8%
	2020年	41	53.2%
所属	福祉系大学	23	29.9%
	社会福祉士養成施設	34	44.2%
	介護福祉士養成施設	20	26.0%
年齢	平均値	31.23	
	中央値	26	
	標準偏差	13.126	

調査対象の概要については表 1 の通りである。年齢及び実習記録への ICT 導入に関して無回答であった調査票については、無効とした (4 票)。

表 2 実習記録への ICT 導入

	度数	有効%
賛成	55	71.4%
反対	22	28.5%
合計	77	100.0%

実習記録の ICT 導入については、表 2 のように賛成が 71.4% (55 人)、反対は 28.5% (22 人)であった。ICT 導入に関する意見と、年齢や所属などの属性との関連について統計解析を行ったが、いずれにおい

ても有意な関係性は認められなかった。社会福祉士養成施設の回答者の中には実習が免除される実務経験者も含まれているが、ICT導入に対する意見において有意な関係性は認められなかった。

実習記録へのICT導入に反対する理由について、自由記述欄に書かれた反対理由から質的分析を行った。分析方法としては船島(2007)による「意味内容の類似性による分類と命名」^[7]を基に、中畠(2015)による「コード・サブカテゴリー・カテゴリー例」の表^[8]を用いて、共同研究者によるトライアングレーションを行った。その結果が表3である。最も多い意見としては「手書きによる学習効果」、次いで「手書きによる非言語的伝達効果」であった。「操作への不安」、「システムの信頼性」といったICTという技術に対する不安による意見も見られた。

表3 実習記録へのICT導入に反対する理由

カテゴリ (文章数)	コードの一部
手書きによる学習効果 (11)	頭に残る、記憶に残るから 考えることが身につかない 言葉遣いが丁寧でなくなる 正確に書けるようになるため 手書きの方が考えがまとまる 予測変換を使うと考えなくなる。
手書きによる非言語的 伝達効果 (6)	手書きのコメントの方が受け取りやすい 手書きの方が思いが伝わる 文字で相手に伝えることが大事。 字からも気持ちが伝わる
操作への不安 (6)	アナログ人間で使用できない 使用できない 慣れていないため。
システムへの信頼性 (5)	遊ぶ人がある システムへの信頼性が高めることが必要 リスクが高い
手書きそのものに意味 がある (4)	手書きに意味がある 手書きの方が早い 若いうちは手書きをすべき
紙を使用する利点 (3)	紙が見やすい 紙の方が書きやすい 修正が加えられたと分かるため
端末機器の確保 (3)	機器準備の費用負担 端末の準備ができない
専門職として必要な こと (2)	仕事と資格に手書きが必要 仕事に対する重みが理解できる。

5. 考察

表3で整理した反対理由を、図示化したものが図1である。手書きを重視する考え、ICTへの不安、紙を使う方が便利といった観点から、ICT導入に反対していることが分かる。

これまでに福祉領域以外で行われてきたeポートフォリオ導入の研究成果^[9]等から、実習記録にICTを導入するということは、実習記録を書くことによる教育目的の達成において、有効であると仮説を立

てることは可能であろう。しかし、既に佐藤(2013)が示した結果^[10]と同様に、福祉専門職教育におけるICT導入への反対意見には経験主義的な見解による考えがある。より高度な福祉専門職養成教育を行うにはどうすれば良いのかという観点から、手書きの場合とICTを活用した場合では教育目的の達成にどのような違いがあるのか(あるいは違いがないのか)を検証する研究が今後必要であると考えられる。

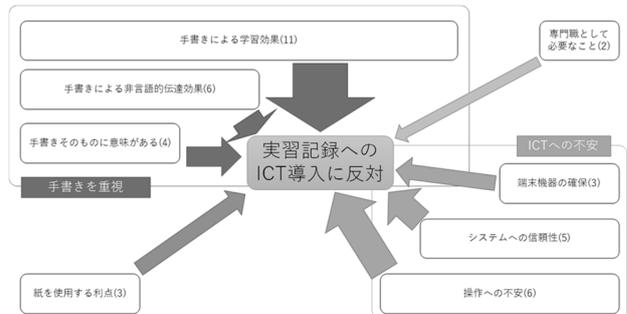


図1 実習記録へのICT導入に反対する理由

謝辞

本研究はJSPS科研費19K02977の助成を受けたものである。

参考文献

- 坂本毅啓: “福祉専門職養成教育における実習及び実習指導でのICT活用に関する先行研究レビュー”, 教育システム情報学会研究報告, Vol.36, No.1, pp.31-34 (2021)
- 厚生労働省社会・援護局福祉基盤課福祉人材確保対策室: “社会福祉士養成課程のカリキュラム”, (2020)
- 文部科学省高等教育局長, 厚生労働省社会・援護局長: “大学等において開講する社会福祉に関する科目の確認に係る指針”, (2020)
- 一般社団法人日本社会福祉士養成校協会実習教育委員会: “相談援助実習・実習指導ガイドラインおよび評価表”, (2013)
- 一般社団法人日本社会福祉士養成校協会編: “相談援助実習指導・現場実習教育テキスト 第2版”, 中央法規, 東京 (2015)
- 社団法人日本社会福祉士養成校協会監修, 白澤政和・米本秀仁編集: “社会福祉士 相談援助実習”, 中央法規, 東京 (2009)
- 船島なおみ: “質的研究への挑戦 第2版”, 医学書院, 東京 (2007)
- 中畠洋: “初学者のための質的研究 26の教え”, 医学書院, 東京 (2015)
- 油川ひとみ, 野平知良, 清水頭, 市来真彦, 長岡由女, 赤羽大悟, 三島史朗, 天野景裕, 太原恒一郎, 中神義弘, 青木昭子, ブルーヘルマンスラウール, 三苦博, 山科章: “eポートフォリオのデータから見る効果的な使用方法”, 第44回教育システム情報学会全国大会, pp.143-144 (2018)
- 佐藤貴之, 坂本毅啓: “福祉専門職教育における情報技術を用いたシステム導入の検討”, 教育システム情報学会研究報告, 第28巻, 第1号, pp.74-79 (2013)